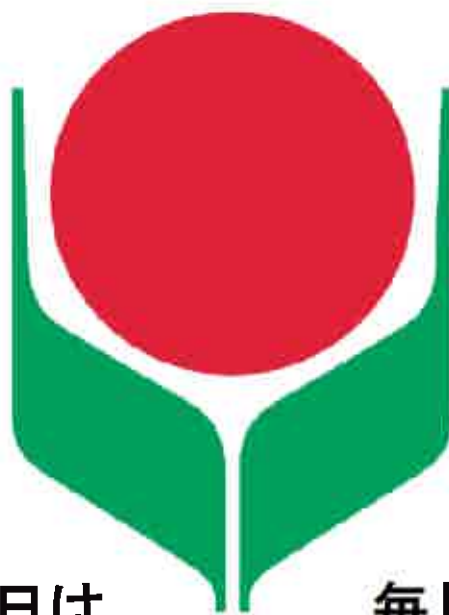




感謝・信頼と連帯・夢

第17回

かんら家庭の日推進大会



毎月第1日曜日は
家庭の日

毎月第1土曜日は
少年の日

令和6年3月3日(日)
PM1:30～ (1:00開場)

甘楽ふれあいの丘 甘楽町文化会館 大ホール

主催 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会・甘楽町教育委員会
後援 甘楽町区長会・甘楽町校長会・甘楽町小中学校 PTA 連合会
甘楽町民生委員児童委員協議会・甘楽町更生保護女性会
甘楽町子ども会育成会連絡協議会

かんら家庭の日推進大会

「家庭の日」の運動は、1955年（昭和30年）に鹿児島県で生まれ、群馬県でも昭和40年、子どもの日を記念して提唱され、毎月第1日曜日を「家庭の日」と決めました。また、昭和58年度から毎月第1土曜日を「少年の日」と定め、「家庭の日」と連動した青少年の健全育成のための県民運動が推進されています。

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころでもあります。

また、子どもたちにとっては、生きるルールを覚える最初の学校であり、知らず知らずのうちに、人格が形成されていく場でもあります。

家庭がそのような働きをよりよく発揮するためには、家族みんなの心がふれあう明るい家庭づくりを進めることが大切です。

甘楽町青少年育成推進員連絡協議会では、家庭の大切さ、家庭の役割のすばらしさ、青少年が自身の行動の責任と社会の一員としての自覚を深める日として、町内の小中学校から「家庭の日」「少年の日」の標語や作文などを募集し、表彰 作品展示 を行い「かんら家庭の日推進大会」を開催いたします。

[作品展示]

甘楽町文化会館 3月3日（日）

ららかんら 3月5日（火）～3月20日（水）

「家庭の日」「少年の日」標語

「家庭の日」 作文

「家庭の日」「少年の日」絵画・ポスター

～ 次 第 ～

第 一 部

1. 開 会

2. 主催者あいさつ 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会長 住 谷 仁

3. 表 彰 標語の部 作文の部

4. 来賓祝辞 甘 楽 町 長 茂原 荘一様

甘楽町議会議長 白石 豊樹様

西部教育事務所長 岩崎 聡様

5. 入賞作品発表 標語の部 作文の部

6. 講 評 甘 楽 町 教 育 長 近 藤 秀 夫

7. 閉 会

第 二 部

アトラクション 甘楽中学校吹奏楽部

第17回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	家族でね 話そう聞こう 今日のこと	福島小学校 5年 吉井 あかね
	つなげよう ワイファイよりも 心の輪	甘楽中学校 1年 清水 海美
優 秀 賞	忘れてない? 家族の時間 喋ろうよ	小幡小学校 6年 石黒 萌愛
	話そうよ ゲームとテレビ オフにして	新屋小学校 5年 小井土 蒼真
	やさしい 気持ちは 家庭から	新屋小学校 5年 渡邊 結莉
	「ねえきて」 はずむ会話 楽しい夕食	新屋小学校 5年 野口 紗稀子
	家族とは 何でも話せる いこいの場	新屋小学校 6年 飯塚 旺亮
	つくれる? 家族と話す 大事な時間	甘楽中学校 1年 篠原 理織
	朝起きて 元気いっぱいの あいさつを	甘楽中学校 1年 太附 結心
	「ありがとう」 その一言で ほっとする	甘楽中学校 2年 神戸 陽向
	手伝うよ ふとした時の 思いつき	甘楽中学校 2年 磯貝 知花
	どんな時でも 背中を押してくれる 家族の言葉	甘楽中学校 2年 町田 さくら

第17回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【少年の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	その言葉 あいてのきもち 考えて	新屋小学校 5年 森平 悠生
	あいさつは みんなとつなく 合言葉	甘楽中学校 1年 大澤 煌希
優 秀 賞	その言葉 本当に送って だいじょうぶ?	小幡小学校 5年 齋藤 小粋
	その命 世界に一つ 大切に	新屋小学校 5年 茂木 乃葵
	ひとりずつ 違う個性が 輝くよ	新屋小学校 5年 小瀬 夏海
	だれにでも 笑顔であいさつ とどけよう	新屋小学校 5年 神戸 望来
	ありがとう みんなをつなぐ キーワード	新屋小学校 6年 飯塚 旺亮
	どんな時も 自分のことを 大切に	甘楽中学校 1年 大河原 楓
	私たち 一人一人が 地域の宝	甘楽中学校 1年 植松 結希歩
	おはよう その一言で 心が開く	甘楽中学校 1年 中島 千菜乃
	「大丈夫？」 そこから伸びる 救いの手	甘楽中学校 1年 市川 沙弥
	「ちょっとだけ」 取り戻せない あの日常	甘楽中学校 2年 堀越 柚葵

第17回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 作文の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	家族との時間	小幡小学校 6年 久保田 隆之修
	今日のこと	甘楽中学校 1年 清水 海美
優 秀 賞	お母さんへ感謝	小幡小学校 6年 落合 紗季
	家族の絆	小幡小学校 6年 田村 優朱
	自慢の和菓子屋	福島小学校 6年 山口 啓太
	家族と話す時間	甘楽中学校 1年 堀込 梨世
	毎日の幸せ	甘楽中学校 1年 中島 千菜乃
	家族で過ごす時間の大切さ	甘楽中学校 1年 深澤 真莉愛

《最優秀賞》

家族との時間

甘楽町立小幡小学校 6年 久保田 隆之修

ぼくの家族は、お母さんと弟とおじいちゃんとおばあちゃんです。お父さんもいるけれど、福岡に住んでいます。ぼくのお母さんとお父さんは夫婦ではなくなったけれど、ぼくのお父さんはいつもこれからもぼくのお父さんだとお母さんは言います。お母さんは仕事が忙しくて、朝早くに家を出て、夜になってから帰ってきます。家にはおじいちゃんとおばあちゃんがいるけれど、時々さびしくなります。でも、やりたかった仕事と言っていたのでがんばってほしいです。

たまにお父さんとは電話をします。本当は会えるはずだったけれど、新型コロナウイルスがはやったから、なかなか会えませんでした。ぼくのお父さんは病院での仕事をしているから、お父さんがコロナにかかって、かん者さんにコロナがうつってしまったら大変だからです。この夏は会えるはずだったけど、今年も会えませんでした。いつかまた会えたらいいなと思っています。

お母さんは仕事が忙しくなって、いつもつかれているみたいです。でもずっとやりたかった仕事ができるようになったから、ぼくも協力しています。朝六時半には家を出発するので、ぼくが弟の面どうをみます。弟は、あんまりぼくの言うことをきいてくれないので、困ってしまうことがあります。

「いつもありがとう、ごめんね。」

とお母さんは言います。

「大丈夫だよ。」

とぼくは言います。つかれるけどお母さんも仕事でつかれるのでぼくもがんばります。

お父さんとお母さんがいる友だちがうらやましくなる 때가正直あります。でもいっしょに過ごしていると今の家族でよかったと思います。

大変なことも、つらいことも、悲しいこともある。けれど、嬉しいこと、楽しいこともいっぱい時間をこれからたくさん家族と過ごしていきたいです。

《最優秀賞》

今日のこゝと

甘楽町立甘楽中学校 1年 清水 海美

「おかえり。学校どうだった?」「えっとね、今日は外で体育やったから暑かったんだ。それから・・・」私のお母さんはいつも学校はどうだったかや何が起きたかを聞いてきました。その習慣は小学校に上がったときから始まって、当時の私は「そんなこと聞いてどうするんだろう?」と思っていました。毎日、お母さんはその事を聞いてきて、私の中でも、それが当たり前になってきました。あるとき、私が学校でころんでしまい、少しけがをしました。保健室で手当てをしてもらい、その後も授業を受けてから普段通りに帰り、家に帰ったとき、私はくつも脱ぐ前に「ただいまー。あのね、私ころんでけがしちゃったんだ。」と言いました。自分が大きくなってから気がついたのですが、私が出来事を話すことで、学校でトラブルや困ったことがないか、お母さんは確認してくれているとわかりました。そのことに気づいたとき、私は母の優しさを感じ、とてもうれしくなりました。

中学一年生になった今でも、口から自然と今日のこゝとが出てきます。うれしかったことも、不安で心配なことも話しているの、うれしかったことは二倍に、不安なことは半分になっているように感じます。話すことで、心が軽くなるので、六年経った今でもその習慣は続いています。

「毎日聞いててあきないの?」と、ふとお母さんに聞いてみました。すると、「あきないよ。それに、海美の成長していく姿が感じられてうれしい。」と答えてくれました。自分はそのなつもりはなかったけれど、私もうれしくなりました。これまで育ててくれた感謝の気持ちとこれからもよろしくお願ひしますという思いを胸に、これからも今日のこゝとを話していきたいです。

《優秀賞》

お母さんへ感謝

甘楽町立小幡小学校 6年 落合 紗季

お母さん十一年の間愛情たっぷり育ててくれてありがとう。いつも頑張って家事育児仕事をしてくれているお母さんへ、この機会に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

私が元気に学校へ行けること、新しい洋服を着ることができると、家がきれいなこと、習い事ができること、遊びに行ったり旅行に行ったりできていることは、お母さんが頑張って働いてくれたお金を色々なものに出してくれたり、お母さんが毎日家事をしてくれるおかげだと思っています。

その毎日のお母さんの温かい心が私の生活を支えてくれているんだと思っています。私はいつもリラックスできるけれど、お母さんは朝起きてからずっと家事で動き回っていて、そのまま仕事に行っているのです。結局お母さんがリラックス出来るのは仕事から帰って来てからの時間だと思っています。それは大変な事なのではないかと感じています。そんな大変な中で私が十一年間過ごしてきて、お母さんは一回も辛い顔なんてしなかったなと思います。その私に対する心の温かさは世界一だと思っています。

そんなお母さんに頼りっぱなしでは将来一人で生活することになった時困ってしまうだろうなと思います。それからもしお母さんが体調を崩して大変になった時に今は何もできないので、これからは少しずつ家事ができるようになりたいなと思いました。

私が大人になったらお母さんみたいな素晴らしい心を持てる人になりたいです。

《優秀賞》

家族の絆

甘楽町立小幡小学校 6年 田村 優朱

最近、児童ぎゃく待や育児放棄などの悲しいニュースを度々、目にすることがあります。調べてみたところ、年々、相談件数が増えていることがわかりました。どうして自分の子どもを大切にしないのか、と疑問に思います。また、一人一台、スマートフォンを持つようになり、家族の会話が少なくなっている、というニュースも見ることがあります。家族の絆とはなんだろうと考えてみました。

私の家族は父、母、私、弟、祖母の五人家族です。毎日、一緒にテレビを見たり、学校であったことを話したりするなど、みんなで顔をあわせて会話することを大切にしています。笑顔が多くて、明るい家族だと思います。そんな私の家族に大きな出来事が起きたのは、七月上旬のことでした。私が体育館でバレーの練習をしている時、友達のお母さんから、

「弟のまなと君が家で大きなけがをしたため、今日は誰もむかえに来れない」と聞きました。突然のことに、今まで感じたことのない不安な気持ちでいっぱいになりました。家に帰ると、左腕が白いギブスで固定され、うつむく弟の様子が目に飛び込みました。夜、痛くて眠れない弟に対して、お父さんとお母さんはねないで、必死にかん病をしていました。私はできる限り早く学校から家に戻り、弟の荷物をもってあげたり、体を支えるなど、積極的にサポートをしました。また、祖母は弟が学校を休んでいる間、ずっと一緒に時間を過ごし、弟に寄りそっていました。弟は家族に対して、ありがとうと何度も言ってくれました。時間が過ぎると、けがも順調に回復し、今では元気にサッカーをしています。このように、家族の危機をみんなで乗り越えることで、今まで以上に一人一人が家族を思いやり、絆がさらに強くなったと思いました。

私自身、思春期という難しい時期に入ってきているが、この家族が大好きであり、これからも家族の絆を深めていきたいと思います。

《優秀賞》

自慢の和菓子屋

甘楽町立福島小学校 6年 山口 啓太

ぼくの家族は、地域で親しまれている自慢の和菓子屋です。ぼくのお父さんは、とてもおいしい自慢の和菓子を作ります。おすすめは、どら焼きです。ふっくらおいしいやさしいどら焼きを作ります。友達や知り合いに、

「この和菓子、すごくおいしいね。」

と、言われると、家族を誇れます。和菓子を作っている所を見学していると、家族みんな真剣なまなざしで、和菓子作りをしています。そんな家族が、とてもかっこいいと思います。二年生の授業で、町たんけんをします。その時は、毎年二年生が和菓子屋に来ます。後で、二年生の手紙がとどくと、みんなお父さん達に、すごかったですや、ありがとうございますと書いてくれるので、家族はすごいなと思いました。お母さんは、仕事でいそがしい中でも、家事をしたり、ご飯を作ってくれます。そんなお母さんには、感謝をこめようと思いました。

しょう来、ぼくは和菓子屋をつごうと思います。いつも仕事がんばっているお父さんお母さんに恩返しをしたいと思っているからです。そのためには、よく、お父さんやお母さんが作っている所を見ていようと思います。そして、作る時は、気持ちをこめて作ろうと思います。いつか、お父さんお母さんに認めてもらえる和菓子を作りたいです。

家族は、誇れる自慢の和菓子屋です。やさしくて、そしてかっこいいです。そんな家族に育てられて、本当に良かったです。これからも、家族を見習って、大人になったら、今度は、かっこいいと言われ、自慢される和菓子屋になりたいです。お父さんも、いそがしい中、がんばっています。お母さんも、やさしくぼくを育ててくれています。いつかの恩返しのためにも、かっこいい和菓子屋になろうと思います。

《優秀賞》

家族と話す時間

甘楽町立甘楽中学校 1年 堀込 梨世

「ちょっと待っててねー。すぐ入ってくるからー。」と勢いよくお風呂に向かう妹。「早くねー。」と私が急かす。

時々我が家は、寝る前に三十分ほど家族団らんの時間を作る。それは、カードゲームだったり、テレビゲームだったり、好きなアーティストのライブを観たりなど色々だ。

私が中学生になってから、家族みんなで夕食を食べる時間がぐっと減ってしまった。私が塾で遅くなる時もあるし、お父さんが仕事で遅くなる時もある。それぞれ、やらなくてはいけない事もたくさんあるので、忙しくてピリピリしている人も時々いる。でも、寝る前に時間に余裕がある日は、リビングにみんなで集まって家族団らんの時間を作る。

「今日は何する?」「ゲームが良い。」「それはこの前したから今日は違う事をしようよ。」などと、話している時間も楽しい。

忙しい毎日だけど、家族で集まって、みんなで色々話しながら、笑って一日を終えるというのは、とても気持ちが良いし、リフレッシュした気持ちでベットに入ることができる。

私が今日あった出来事を話したり、他の家族の一日のエピソードなどを、聞いたりしている時間も楽しかったり、色々と考えさせられる事もあり、大切な時間ではあるが、一日の最後にみんなが好きな事をして、笑い合えるこの時間が私は何より大好きだ。

朝起きればまた、慌ただしい一日が始まる。今日もやらなくてはいけない事が山盛りだ。そう思うと、朝から少しだけ疲れた気持ちになるが、そんな時は、「今日何しようかな。」などと、夜の団らんの時間を考えながら、気持ちを入れ替え、一日を元気にスタートさせるのだ。

《優秀賞》

毎日の幸せ

甘楽町立甘楽中学校 1年 中島 千菜乃

私は母、父、姉二人、弟、そして私の六人家族です。長女は今、他県の大学に通っていて一人暮らしをしているため家にいるのは五人です。しかし夏休みなどの長い休みには帰ってきたり毎日電話で話したりしています。

私たち家族はとても仲が良いです。家族といるときはいつも楽しいです。みんなでそろって食べる夕飯は特に楽しくてその日一日の疲れを吹き飛ばしてくれます。私の家族は六人なので夕飯の時の食事はたくさんの料理がのったお皿で埋め尽くされます。みんなで食べる温かいご飯はとてもおいしいです。温かいご飯を食べながら今日あった出来事などを話します。私の家族はみんな面白い話が大好きなので夕飯の時間にその日あった面白いことを話します。みんなたくさん笑うので家の中はお笑い劇場状態です。

私のおばあちゃんの家は私の家の数十メートル前に建っています。私の家は夏の涼しい夜は窓を網戸にして過ごします。そして夕飯の時間。私たち家族はいつものように温かくおいしいご飯ののった食卓を囲みながら今日一日あった出来事を話します。いつものようにたくさん笑います。次の日、おばあちゃんの家に行くとおばあちゃんとおじいちゃんが、

「昨日は楽しそうに笑ってる声がよく聞こえたよ。毎日幸せそうでいいねえ。」

と言ってきました。そして私は気が付きました。みんなで笑いながら温かい食卓を囲むことは当たり前のようにかけがえのない幸せだったんだと。きっと私がおばあちゃんの知り合いの方に、

「笑顔が幸せそうで素敵だね。」

と言ってもらえるのも私がこの家に生まれて毎日楽しく笑顔で過ごしてきたからだと思います。

私はこの家に生まれて幸せです。だからこれからも家族のことをちゃんと愛して家族で笑いながら過ごせる毎日に感謝しながらこれからも生きていきたいです。

《優秀賞》

家族で過ごす時間の大切さ

甘楽町立甘楽中学校 1年 深澤 真莉愛

私の家族は、お父さん、お母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃんの五人です。お父さんとお母さんとお兄ちゃんは、仕事をして働いているし、お姉ちゃんは高校生で高校生活をとても楽しんでいるようです。それぞれが、いろいろなところでがんばったり、楽しんだりしていてすごくいいなと思います。

ですが、そのせいで最近五人全員が集まるのが少なくなりました。以前は、みんなでいっしょに夕食を食べたり、テレビを見たりしていました。私は、その五人で集まる時間が大好きでした。五人全員がそろると、うるさいと思うぐらい大きな声でみんながたくさんしゃべります。みんなでしゃべる時間は、とても楽しくて、なんだかおだやかな気持ちになります。「家族がいるとこんなに落ちつくんだ」と思うことができます。

今となっては、家族五人の全員が集まることは減り、貴重な時間となりました。なので、これからは、その貴重な時間を大切にしていきたいと思っています。もちろん、家族と意見がぶつかりけんかをしてしまうこともあります。けんかをすると、すぐに仲直りするときもありますが、長いと何日かしゃべらなくなることもあります。何日間かしゃべらないと、だんだんさみしくなってくることもあります。でも、なかなか自分からあやまることができません。そんなことを考えていると、自然と普通にしゃべるようになり、仲直りしていることがあります。こういう時に「やっぱり家族だな」と感じます。

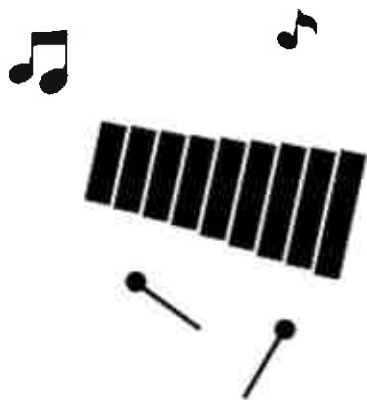
私にとって自分の家族は、けんかをしてしまうこともあるけど、いてくれるととても落ちつける大事な人たちです。家族全員が集まる時間は、本当に少なくなっているのが貴重な時間をこれからは大切にしていきたいと、心から思っています。この作文を通して、家族で過ごす時間の大切さについてたくさん考えることができました。

アトラクション



 甘楽中学校 吹奏楽部

「栄光をたたえて」 ほか





かんらちゃん

甘楽町キャラクター「かんらちゃん」